〔續日本紀二文武〕大寶元年九月丁亥、天皇幸紀伊國、十月丁未、車駕至武漏温泉、戊申、從官并國郡司等、進階并賜衣衾、及國内高年給稻、各有差、勿收當年租調并正税利、唯武漏郡本利並免、曲赦罪人、

〔空穗物語吹上之下〕かくて紀伊國むろのこほりに、かみなひのたねまつといふ長者、かぎりなききよらのわにて、たゞいま國のまつりごと人にて、かたちきよげにて心つきてあり、

〔大和物語上〕おなじ男、紀伊國にくだるに、さむしとて、きぬをとりにをこせたりければ、女、

きの國のむろのこほりに行人は風のさむさもおもひしられじ、返しおとこ、

紀伊國の室の郡に行ながら君とふすまのなきぞかなしき

〔倭名類聚抄九紀伊國〕伊都郡　神戸　賀美○美、高山寺本作茂、村主　指理　桑原

那賀郡　神戸　右手○右、高山寺本作石、福門○福、高山寺本作橋、那賀　荒川　山埼　埴埼、○高山寺本註羽佐岐

名草郡　大屋　直川　苑部　大田　大宅　忌部　誰戸　斷金　驛家　野應　津麻○麻、高山寺本作摩、

神戸　國懸　島神戸　有眞○高山寺本註アリマ大屋　八○八、字高山寺本无、荒賀　大野　旦來○旦、高山寺本作朝　日

前神戸　伊太杵曾神戸　須佐神戸

海部郡　賀太　濱中　全戸　嫁家○嫁誤字、恐

在田郡　吉備　温笠　英多　奈郷　須佐

日高郡　財部　清水　内厚○厚、高山寺本作原　石淵　南部　全戸

牟婁郡　岡田　牟婁無婁　栗栖　三前　神戸

〔古語拾遺〕仍令天富命太玉命之孫率手置帆負彦狹知二神之孫、以齋斧齋鉏始採山材構立正殿、○中略故其裔今在紀伊國名草郡御木、麁香二郷、古語正殿謂之麁香、採材齋部所居謂之御木、造殿齋部所居謂之麁香、是其證也、

〔大安寺伽藍緣起并流記資財帳〕合墾田地玖佰參拾貳町